

## 21世紀の公民科教育の課題と展望～公民科新科目の円滑な実施に向けて～

実践報告者：徳島県立城南高等学校

教諭 吉原 美悠

### I. 学校の概要について

徳島県立城南高等学校は来年度創立150周年を迎える、県内で最も長い歴史をもつ高等学校である。本校の生徒は、創立当初から現在まで受け継がれる「自主・自立」の校風のもと、授業でも学校行事でも部活動でも生徒一人ひとりが自分の目標をもち、その実現に向かって苦しみながらも日々励んでいる。学業面においては、放課後に勉強を教えあう生徒の姿や職員室まで質問に来る姿が毎日ある。文化面やスポーツ面でも全国大会に多数の部や同好会が出場するなど輝かしい功績を残している。

本校の学科は、「普通科」と「応用数理科」の2つの学科がある。両学科では、大学と連携した探究活動を実施したり、海外研修として台湾の国立竹南高級中学と交流をしたり、多様な価値観が混ざり合う現代社会を生きていく力を身に付けるためのカリキュラムが設定されている。

「応用数理科」では、スーパーサイエンスハイスクール（SSH）の指定を受けており、園瀬川総合科学調査、大学教授による講義や大学の設備を借りての実験を実施するなど高校1年次から研究について本格的に学んでいる。国際社会で活躍する人材を育成するために、研究に必要な英語を学ぶ授業も教育課程の中に設定されている。

### II. 本校での取り組みについて

外部との連携として、主権者教育出前授業を毎年12月頃に高校2年生を対象に実施している。昨年度は徳島大学の饗場和彦教授から「ホントーは怖い民主主義と政治のはなし」という演題で御講演いただいた。昨年度は初めての試みとして金融教育出前授業も実施し、阿波銀行の行員の方に授業を行っていただき、家計の設定の仕方や投資、預金、ライフプランについて生徒が学ぶ機会を得ることができた。

### III. 授業実践について

「生徒自身が自ら選択し、判断し、日常の行動や主権者としての意識につなげる力を養う公民科の授業」を目指して授業実践を日々行っている。公共や倫理の授業を実践するうえで、重要視していることは、生徒自身が選択し判断する場面を多く設定することである。

#### ○日頃の授業における実践

- ・【公共】世界の政治体制の中で「議院内閣制」「大統領制」「民主的権力集中制」についてのレビューを作成する。
- ・【倫理】思想家になりきって悩み相談を受ける。

## ○実践報告について

今回の実践報告で取り上げるのは、「大項目B 自立した主体としてよりよい社会の形成に参画する私たち」における授業である。

大項目Bは、学習指導要領において、「自立した主体としてよりよい社会の形成に参画することに向けて、現実社会の諸課題に関わる具体的な主題を設定し、大項目の『A 公共の扉』で身に付けた選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理などを活用して、人間と社会の在り方についての見方・考え方を働かせ、他者と協働して主題を追究したり解決したりする学習活動を通して、人間としての在り方生き方についての理解を深めつつ、法、政治及び経済などに関わるシステムの下で活動するために必要な知識及び技能、思考力、判断力、表現力等を身に付けることを主なねらいとしている。」と記されている。

この記述を受けて、財政及び租税の役割をテーマとする授業実践を行った。

### 公民科（公共）学習指導案

- |               |                                  |
|---------------|----------------------------------|
| 1 履修単位数       | 2 単位                             |
| 2 実施日時        | 令和6年2月15日（木）第6時限<br>2月16日（金）第2時限 |
| 3 学級          | 208ホームルーム（28名）                   |
| 4 使用教科書       | 『詳述 公共』（実教出版）                    |
| 5 単元（題材）名     | 現代の経済社会（政府の役割と財政・租税）             |
| 6 単元（題材）設定の理由 |                                  |

#### <生徒観>

208ホームルームは、応用数理科のホームルームである。生徒は、授業に意欲的に取り組み、教員の発問に対して一人ひとりが自分の考えをノートに記述したり、発言をしたりする様子が毎時間見られる。グループワークでは、自分の意見を発言するだけにとどまらず、級友の意見を踏まえて自分の考えを発言するなど活発な討論が行われている。日ごろからニュースを見る習慣がついている生徒も多く、国内外問わず社会の動きに対して高い関心をもっている。その一方で、自分もつ価値観が正しいものであると信じ込んでいる生徒もあり、自分と異なる価値観に対する寛容の精神をもてていない状況も見られる。

#### <教材観>

本単元は、資本主義経済や社会主義経済の仕組み、市場の仕組みや政府の役割と財政・租税など、現代社会における経済の流れを学ぶことを通して、活発な経済活動と個人の尊重を共に成り立たせることが必要であることに気づき、よりよい社会の実現を視野に、現実社会に存在する課題への現実的な解決策を主権者の一員として主体的に考えようとする態度を養うことをねらいとする単元である。

### <指導観>

中学校での履修内容を多く含む本単元は、知識の獲得に注力するのではなく、少子高齢化や物価高騰、低賃金、長時間労働などの現実社会の課題を取り上げ、それらの課題が起こっている要因を経済の仕組みから考え、課題の解決策を主体的に考える力を身に付けさせたい。解決策を実現するためには、現実社会においてどのような手立てが必要であるのかという視点も踏まえて生徒自身が考察することにより、多様な価値観に寛容であることの大切さにも気付いてほしい。

### 7 単元（題材）の目標

市場経済の機能と限界、財政及び租税の役割などに関する理解を基に、幸福、正義、公正などに着目して、他者と協働して主題を追究したり解決したりする活動を通して、経済的主体としてよりよい社会の形成に参画するために必要な経済の基礎的な知識を確実に習得し、経済活動において不可欠な個人の尊重の視点を身に付けることができる。

#### 【単元を貫く問い】

現代の社会をよりよい社会に変えていくために、経済を通じてできることは何だろう。

### 8 単元（題材）の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
財政及び租税の役割、少子高齢社会における社会保障の充実・安定化、市場経済の機能と限界、金融の働きなどに関わる現実社会の事柄や課題を基に、公正かつ自由な経済活動を行うことを通して資源の効率的な配分が図られること、市場経済システムを機能させたり国民福祉の向上に寄与したりする役割を政府などが担っていること及びより活発な経済活動を個人の尊重を共に成り立たせることが必要であることについて理解している。	自立した主体として解決が求められる具体的な主題に対し、合意形成や社会参画を視野に入れながら、その主題の解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したりしたことを、論拠をもって表現している。	よりよい社会の実現を視野に、多面的・多角的な考察や深い理解を通して、雇用と労働問題、財政及び租税の役割、少子高齢社会における社会保障の充実・安定化、市場経済の機能と限界、金融の働きなどに関わる現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。

9 指導計画 単元名：現代の経済社会 全8時間

第一次 経済社会のしくみ・・・・・・・・3時間

第1時 経済社会の形成と変容・・・・・・・・【○知】

第2時 市場のしくみ・現代の企業・・・・【●思】

第3時 金融機関の働き・・・・・・・・【○知】

第二次 経済成長と景気変動・・・・・・・・2時間

第1時 経済成長率の考え方・・・・・・・・【●態】

第2時 景気変動の特徴と原因・・・・【●知】

第三次 政府の役割と財政・租税・・・・・・・・3時間【○知、○思、○態】

(本時 2/3、3/3)

時程	学習活動	評価の観点			評価規準等
		知	思	態	
第一次 3時間	【第一次の問い】経済の制度や市場や金融機関は、社会にどのような影響を与えているのだろうか。				
	・経済社会の形成と変容	○			評価資料：ワークシート  ●資本主義経済や社会主義経済の特徴への理解を通して、社会に与える影響について考えている。 ●市場経済の機能と限界、企業の形態や活動、現代の企業の特徴への理解を通して、企業が社会に対して果たすべき役割とは何かを考えている。 ●金融や金融政策の働き、金融市場の状況への理解を通して、国民生活に金融が与える影響について考えている。
	・市場のしくみ・現代の企業		●		
・金融機関の働き	○				
第二次 2時	【第二次の問い】経済成長や景気変動は、国民の生活や企業活動にどのような影響を与えているのだろうか。				
					評価資料：ワークシート

問	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 経済成長率の考え方</li> <li>・ 景気変動の特徴と原因</li> </ul>	●	●	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 経済成長率の考え方への理解を通して、経済成長率が上がることによる社会への影響について考察している。</li> <li>● 景気循環の各局面の特徴と景気変動の原因の推測を通して、理解を深めている。</li> </ul>
第三次	【第三次の問い】よりよい社会を築くための予算案の構成はどのようなものがよいのだろうか。			
3時間	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 予算、財政、租税のあり方</li> <li>・ よりよい社会のあり方</li> <li>・ 予算案の作成</li> </ul>	○	○	<p>評価資料：ワークシート</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 予算、財政、租税が社会に果たす役割について理解できている。</li> <li>● 広い視野からよりよい社会像を各班で具体的に考えられている。</li> <li>● よりよい社会像を実現するための予算案を各班で考えている。</li> </ul>

## 10 本時の指導目標

令和6年度の日本村の予算案を各班で作成することを通して、各班で考えるよりよい社会のあり方に基づいて必要な政策や事業は何かについて選択・判断することができる。

## 11 本時の展開

・ 1時間目 <2月15日(木) 6時限目>

時間	学習活動	指導上の留意点	学習活動における 具体的評価規準	評価方法
導入 10分	【単元を貫く問い】現代の社会をよりよい社会に変えていくために、経済を通じてできることは何だろう。			
	・ 本授業の目標を確認する。	・ 国家予算がどのようなことに使われているか、日本村予算案を各		

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各班でよりよい社会のあり方を共有する。</li> <li>・日本村の予算総額と予算を構成する費目及びその費用を確認する。</li> </ul>	<p>班で作成するために必要な事項は何かを気づかせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・よりよい社会のあり方を各班で共通理解を図るよう伝える。</li> <li>・予算総額・予算を構成する費目とその費用のリストを生徒にあらかじめ提示する。</li> </ul>		
展開 40 分	<p>【本時の問い】よりよい社会を築くための予算案の構成はどのようなものかよいのだろうか。</p>			
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リストの情報をもとに、各班で日本村予算案の構成を考える。</li> <li>・次の授業の確認をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各班で考えるよりよい社会のあり方をもとに、必要な費目を取捨選択し、予算案を作成する。</li> <li>・各班で現代社会の動きに応じた新たな費目も必要に応じて追加するよう伝える。</li> <li>・各班で構成した予算案をホームルーム全体に向けて発表することと発表順を伝える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各班で考えるよりよい社会のあり方に基づいて必要な政策や事業は何かを選択・判断することができる。</li> </ul>	[ワークシート]

・ 2時間目 < 2月16日(金) >

時間	学習活動	指導上の留意点	学習活動における 具体の評価規準	評価方法
展開 35 分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各班が考えた予算案を発表する。</li> <li>・政府が考えている令和年度予算案と各班の予算</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各班3分～5分で発表するよう伝える。</li> <li>・発表時に発言する項目をワークシートに明記しておくよう伝える。</li> </ul>		

	案の比較もする。			
まとめ 15分	・前時と本時の内容を踏まえて、予算の社会における役割を確認する。	・日本村予算案に込めた意図の振り返りをする。 ・令和6年度国家予算案に占める国債費の割合を提示する。		

### 13 評価の目安と目標実現のための手立て

A	十分満足できる	障がい者や高齢者、外国人、子どもなど社会で生きていく様々な立場の人がいることを意識したうえで、よりよい社会とはどのような社会であるかを考えることができている。
B	おおむね満足できる	予算総額や国債費を踏まえて、各班が考えたよりよい社会の実現に基づいて必要な予算費目を選択・判断することができている。
C	Bを満たさない生徒への具体的な手立て	よりよい社会のあり方を抽象的な表現ではなく、具体的に表現するよう声をかける。

## IV. 今後の課題について

公民科は、他教科と比較しても、社会や自己とのつながりが深い教科であるが、日頃の自身の授業実践を振り返ると、年間計画に沿った進捗を確保するために、知識の習得を中心とした授業を展開している傾向がある。授業内容と関係の深いニュースを提示することもあるが、提示するだけにとどまっていることが多い。

こうした現状を改善するため、授業を実践するうえで次の2点について意識する必要があると考える。1点目は、生徒が現代社会の諸課題に対する興味をもつ機会をつくることである。2点目は、生徒が自分の中で現代社会の諸課題への解決策を多様な価値観に触れながら考える機会をつくることである。

「生徒自身が自ら選択し、判断し、日常の行動や主権者としての意識につながる力を養う公民科の授業」が自身の中で具体化し、生徒の公民的資質の獲得に貢献できる公民科教員を目指していく。